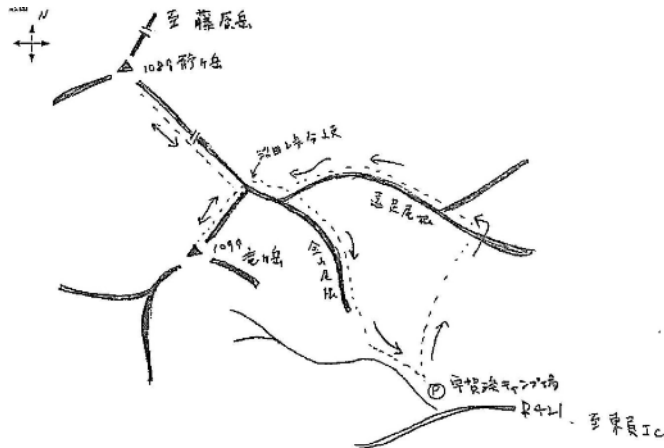


竜ヶ岳

ソロだったはずなんだけど・・・

2019年1月22日

L: 齋藤



アクセス

新名神「東員 IC」を下車。員弁川沿いに北上し、R421を西へ。国道沿いに宇賀溪キャンプ場あり。駐車数十台可(有料500円)。トイレあり。

1月22日(水)くもり

7:30頃キャンプ場着。準備をしていると、女性二人組、男性ソロの2パーティがやってきた。平日なので、他に登山者はいないだろうと思っていたが、竜ヶ岳は人気の山なんだな。

彼らをよそに自分はさっさと準備をし、一番乗りで8:00頃登山開始。

しばらく林道を歩いて、遠足尾根への取りつきへ。雪は全くなかったが、尾根

に出る手前付近から雪が付き始め、次第に雪も降り始めた。いいね、雪山だ。

樹林の中だけど時折強い風が吹き込んできて、これは稜線上は風が強いのかも、なんて少し不安になる。



雪はいつ見ても素敵ですね

岩場が出てきたので念のためチェーンスパイクを装着。お手頃価格で気軽に使えて、なおかつ歩きが安定するこのアイテムは最近のお気に入り。



尾根に出る頃にはすっかり雪景色



樹林帯を越えると広々した尾根に出ました

遠足尾根に乗り、樹林帯をしばらく歩くと急に視界が開けた。とはいってもガスっていて、これから向かう山はさっぱり見えない。時折強く吹く風は、思ったよりも冷たく、独りだどこの視界と風の中、どこまで行けるのだろうか、と考えてしまう。

夏道は雪ですっかり覆われ、ノートレースでかつ視界が悪いので、コンパスを頼りに進むしかない。そしてこの遠足尾

根は途中から広々とした尾根となるので、これまた進むべき道がわかりにくい。何度も止まって地図を見て、地形を見て、何回か腰まで雪を踏み抜きながらも、歩きやすそうな道を検討つけて歩く。



どの道が安全パイ？



突然ズボっといくからびっくりします

悩みながら進んでいたら、ソロの男性に追いつかれてしまった。後方 25m ほどか。先に行ってもらおうと思い、ペースを落としたり、小休止を取ったりしたが、決して私を追い抜かない。ソロで来てるのにまさかのトレース頼り？

彼は近づきすぎず離れすぎず、私は地図を確認しながらで時間がかかる。ついに、女性二人組まで追いついてしまい、

彼女たちと私が合流したら、ソロ男性も近づいてきて合流した。ここで4人パーティが結成された。

女性二人組は地元の方で、この山は何度か登っているそうだ。お先にどうぞ、と勧めたが前には出てこなかった。よって私がそのままトップを務めることになり、彼女たちは「トレースありがとうございます♪」と言っていた。気楽なものだ。

高度が上がってくるにつれ、吹雪になってきた。視界は10~15mほどか。彼女たちは、もう怖いので金山分岐から下山します。と言っていた。自分も単独で登頂はきついかないと思ひ、分岐まであと少し。自分も一緒に下るつもりですから頑張らしましょう。と歩いて行った。



無事に金山分岐に到着

金山分岐に着き、さあ下りましょうかと話すと、ソロの男性は「あと少しなので山頂まで行きます」と言う。この時点で11時。山頂まで片道約1km。地形図で見ると起伏は激しくないが、ここは雪山。想定外の事態を含めて往復90~120分を

みるとすると、下山は遅くなりますよ。と伝えたが、行けるところまで行きます。と言って歩いて行ってしまった。この天気はまだ行くの？ほんとに歩ける？これから下山する彼女たちよりも、ピッケルも持たず吹雪いてる山に向かって行く無謀なソロの男性の方が心配だったので、彼女たちにお断りを入れ、ソロの男性について行くことにした。

彼の5mほど後ろをつけて歩いていたが、しばらくして、次はどっちですか？と聞いてきた。ソロで山に来ている人がその言葉言っちゃう？コンパスを見ながら、左側ですよと助言をすると再び歩き始めた。また立ち止まり、次は・・・？と聞いてきたので、トップを入れ替えることにした。

治田峠分岐を越え、小ピークをひとつ越えると、山頂まであと少し。風はさらに強くなった。ピッケルを刺して耐風姿勢を取りながら、チラッと後方にいる彼を見る。寒いのだろう。両手で顔を覆いながら、前かがみになって耐えている。そんな懸命な姿を見たら、なんとか登頂させてあげたい。と思ってしまう。

山頂付近の雪は風で吹き飛ばされクラストしていた。私も彼もチェンスパイクを履いているからこの辺は大丈夫だろう。風が強くて歩みはゆっくりだけど、歩いていたらまもなく登頂。



凍てついている秀徳山の山頂

まずは私が写真を撮ってもらおう。彼も撮ってくれと言い、出してきた物はスマホ。3枚撮ってくれと言う。寒いのに素手になれってこと？結局、5枚撮ったが、手がとても冷えてしまった。私は1枚だけ撮ってもらったがこんな感じ↓



指、入ってるやん！

山頂は寒いので、写真を撮ったらすぐ下山。私は計画書通り金山尾根から帰るつもりだったが、彼は違う尾根から下山したいらしい。それじゃここでお別れです、ね、気を付けて下山してください。と伝えると「こんなホワイトアウトの状態じゃ遭難するじゃないですか！」となぜかキレ気味。それはこっちも同じさ、と

言いたかったが、これを言うと余計に心配になるだろう。僕は計画書通りに帰りますので一緒に来ますか？と聞くと、え？いいんですか？と案外素直だった。それじゃ、僕らのトレースまで連れていきますんで、そこからは先に歩いてください。と伝え、コンパスを合わせたあと、クラスト地帯を越えて、トレースが見えるところまで先導した。そこからは彼がトップ。万が一彼が滑ることを考慮したら、先に歩かせるのがベストだろう。どこに落ちたかわかるし。でも20mのロープで届くかな？だから絶対滑らないですよ、と気にしていたが、そんな心配をよそにあっという間に金山尾根分岐へ。雪山の下りはやっぱり早い。

ここまで来たら安心だろう。僕はゆっくり帰りますんで、先に行ってください。尾根沿いに真っすぐ歩くだけです。と言って、彼をそのまま行かせ、私はザックを降ろした。これから一気に標高が下がるので暑くなるだろう。アウターもミドルのフリースもザックにしまい、グローブも冬用から100均のフリース手袋に替えた。

それからぼちぼち歩いていたら、結局彼を追い抜いてしまい、分岐から1時間ちょっとで林道に戻ってきた。ここで自分の中で恒例となっているごみ拾いをしながら下山していると、やがて彼も追いつき、一緒に駐車場まで戻った。

駐車場には、分岐で別れた女性二人組

がいた。もしかしたら心配で待っていてくれたのかもしれない。すぐにソロの男性が彼女たちの元に行き、あの方に山頂まで連れてってもらいましたっ！と嬉しそうに話をして盛り上がっていた。よほど嬉しかったのだろう。着替えをしていたら「本当にありがとうございました」といって 500ml の缶チューハイを持ってきてくれた。こちらもお礼を言いつつも、僕はチューハイは飲まないんだよね、どうしようかな？と内心は思ったが、もちろん言葉には出していない。

今回の山行を通して、地図とコンパスを使って、常に自分の居場所を把握しながら、小さく刻みながら歩いていくことの必要性と大切さを改めて感じた。鈴鹿山脈の雪山は初めて来たが、予想以上に厳しく、とても楽しく、さらに今回は予定の静ヶ岳も行けなかったのも、また改めて来たい。そう思わせてくれる山行だった。

<タイム>

宇賀溪キャンプ P(8:02)-遠足尾根取付 (8:19)-遠足尾根 (9:25)-金山尾根分岐 (11:03)-竜ヶ岳 1099(11:38)-金山尾根分岐 (12:00)-遠足尾根取付(13:18)-宇賀溪キャンプ場 P(13:40 頃?)

(齋藤 記)